

千葉県優秀企業経営者表彰 受賞者決まる

独創性と新規性が成長の力ギ

第17回千葉県
ベンチャー企業
経営者表彰

最優秀社長賞(知事賞)



アイ・メデックス社長
市田 信七氏

ニッチ市場で技術力培う

「前職の化学品商社時代に、心電計材料の調達を頼まれたことがすべての始まりだ。当時、使い捨て電極は海外の低品質なものしかなかった。私は営業で入社したがモノづくりが好きで『それなら自分で作ろう』と国産化を目指して使い捨て電極を考案し、1992年に独立した。1992年に電極製造を開始してから技術供与を受けた電極用ゲルを内製化して、24時間患者に取り付けた。」

「脱サラして起業したきっかけは、『前職の化学品商社時代に、心電計材料の調達を頼まれたことがすべての始まりだ。当時、使い捨て電極は海外の低品質なものしかなかった。私は営業で入社したがモノづくりが好きで『それなら自分で作ろう』と国産化を目指して使い捨て電極を考案し、1992年に独立した。1992年に電極製造を開始してから技術供与を受けた電極用ゲルを内製化して、24時間患者に取り付けた。』



携帯型生体センサー用電極パッド「マイローデ」。介護施設やスポーツジムなどから引き合いが好調だ

企業メモ

アイ・メデックス

国内唯一の生体電極専業メーカーで、素材研究から電極スクリーン印刷、ゲル製造までを100%内製化。海外製が市場の8割を占める中では、はがれにくい、ノイズに強いといった高品質な電極を製造する。医療機器メーカーの信頼は厚く、共同開発の打診も多い。12年には拡大する在宅医療市場を狙い、初の自社ブランド製品を発売。第2工場も立ち上げ、業績拡大に挑む。(千葉市花見川区、市田信七社長、043-257-7411)

12年には初の自社ブランド「マイロード」を発売しました。利用者自身で体に取り付けられるほどで、『動きすぎる』という想定外の問題も発生したが、現在は改良を重ねて解決しました。たまたま、当社の電極パッドにはオーリー・ワントクノイズ除電機能を搭載し、クリアに心電・心拍波形を測定できる。介護施設やスポーツは大きい。生体電極には



2012年末に稼働した第2工場

千葉県内の優れた中堅・中小企業経営者を表彰する千葉県優秀企業経営者表彰(第17回千葉県ベンチャー企業経営者表彰)の受賞者5人が決まった。26日、千葉市内のホテルで表彰式と受賞懇親会を開催する。受賞者には賞状、受賞盾のほか副賞金が贈られる。受賞した経営者の年齢や、業種はさまざま。千葉県に密着したサービスで業績を伸ばす経営者や、二つの分野に挑む経営者もいる。知恵と工夫によって企業を成長させている受賞者に、起業のきっかけや事業戦略、今後の展開を聞いた。



2月、千葉市内のホテルで最終審査会が開かれた

今回は書類審査を通過し、千葉大学産学連携・知的財産機構副機構長・太田雅美が審査委員は次の通り。田村真一・千葉県商工労働部産業振興課長、武田好夫・千葉県産業振興セクター理事長・石井泉・千葉県産業支援技術研究所長・北村孝司を選びました。審査委員による最終審査会を開催した。①事業の独創性②競争力③業績④経営ビジョン⑤社会貢献の5点の基準で審査した。委員による活発な議論をもとに厳正に審査した結果、受賞者5人を選ばれた。市田信七(市花見川区)の市田信七(市花見川区)は、新聞社東京支社長、同社は心電計測に使う電磁パッドと導電性ゲルの双方を手がける唯一の企業で、同社製品が採用された心電計は全国の病院に入っている。市田氏は医療分野

最終審査会で5人を選出

今年度の受賞者たちは…

千葉県優秀企業経営者表彰は、1996年(平成8年)に千葉県内の優れた中堅・中小企業経営者を顕彰している。主催は千葉県産業人クラブ(白鳥農会)が後援。業新聞社が後援。地に根ざす経営者の功績を表彰

地域に根ざす経営者の功績を表彰

県経済の活性化を後押ししている。応募は自薦他薦問わず果たして、海外事業の拡大によって業績を伸長させたり、事業を次の成長局面に移した経営者も多数に150人の経営者

を選出してきた。過去の受賞者には、受賞後に株式上場を果たしたり、海外事業の拡大によって業績を伸長させたり、事業を次の成長局面に移した経営者も多数に150人の経営者

を選出する。ひまわりベン

ナノ技研(同成田市)の測

定機器副機器長・太田雅美

を作り続ける姿勢が高く評

価された。

受賞者には3人が選

ばれた。

千葉県の大瀧学社長は中小

企業進出後10年未満または新

創業10年未満または新

業進出後10年未満または新

創業10年未満または新

業進出後10年未満